

《帆引き船フェスタ》 ●主催／かすみがうら市観光協会

迫力満点の帆引き船

歩 崎公園地内で5月4日・5日、「帆引き船フェスタ」が行われ、帆引き船が霞ヶ浦に雄大な姿を現しました。カヌーやレクリエーションスポーツなどの体験イベントや地域食材を使った「かすめし」が初登場しましたが、人気は今年初となる帆引き船の特別操業。青空が広がる天気のおかげで、家族連れやカメラ愛好家などが随伴船に乗り、真っ白に帆を張った迫力満点の帆引き船を見学しました。帆柱に真っ白い大きな帆があがると、家族連れが歓声を上げたり、カメラ愛好家らが一斉にシャッターを切るなど、湖上クルージングを楽しみました。



》文化協会加盟団体紹介

ひとりしずか

柳は緑花は紅いと古来より先人の豊かな伝承があります。ある時、坂本重道氏との話の中で、地域の人々の生活の基本となる心の文化のことに、深く意を寄せて熱く語らうことを聞きました。数人のお茶ガールと、月一度の会を以って居ました。これを松風とか、一碗のもやいと言うことが出来ますか。あゆみ庵の開設へとその意志は、実現しました。この敷地と施設は見事な故人の清明なる道につながるものとなりました。お茶ガールは、これを享受し、和敬の為につどうところ、心の道場と致すことが出来ました。臨済禅師のことばに、無事貴人と、小事大事にとられず、行ずる人へのあゆみを示されています。会の名も会長が独断専行で「ひとりしずか」として、昭和六十年代から月一回の研修を重ね続けております。

》市民学芸員雑記帳

新徴組退職後の古渡喜一郎

幕末に新徴組で活躍した古渡喜一郎は退職後に荻平(実倉)へ帰郷し「喜一郎」から「弥壮治」と改めたと考えられています。弥壮治は、荻平を拠点とし主に警察官として活躍し、明治8年は大和田警察出張所勤務、明治10年には一等巡査、11年には茨城県警部となりました。11年8月10日付『各村巡回簿』資料に茨城県土浦分署古渡弥壮治の記録があり、所轄する各村を巡回する弥壮治の様子も語りがれています。その一つに、「荒川沖村(現土浦市)は治安が悪く住民を悩ませていましたが、弥壮治が巡回するようになってから治安が良くなり村民から大変感謝された」とあります。このことから弥壮治の正義感あふれる巡回指導のうかがい知ることができます。(岡田霞)

文芸ひろば

詠歌の紹介

千代田短歌会

日もすがら散りゆく桜植ゑし日の亡夫を頼たせて止むこともなし
青嶋はひねもす沢に降り立ちて夕ぐれ森の畔へ帰る
田植糸済みて蓮田も水を湛へたりさみどりの中「農」は息づく
静かなる雪入山に登り来て眼凝らせば鶯鳥の影

宮本和子
目黒しづ子
遠藤富重
大西周

投稿作品

新緑の気を身に受けて箱根路の花園歩む娘夫婦と
氷片を浮かべて梅酒飲む夕べのくゆすればすりむに踊る
亡き夫に護られをらむ吾かとも「千の風になつて」を唄いつぎつつ
若き日に旅をしたと思ひどもはや残り火燐るばかり

小室貞江
飯島ヒロエ
小貫弘子
名倉靚子

野バラの香独り占めして草引けば不如帰が啼く特許許可局
早苗田に水ゆるやかに注ぎ入るに稚苗はそよぐ嬰兒のごと

菅谷味子
渡辺静江

投稿作品(俳句・短歌・川柳)を募集しています。7月10日頃までに秘書広聴課へお願いします。